

有志の市内の諏訪

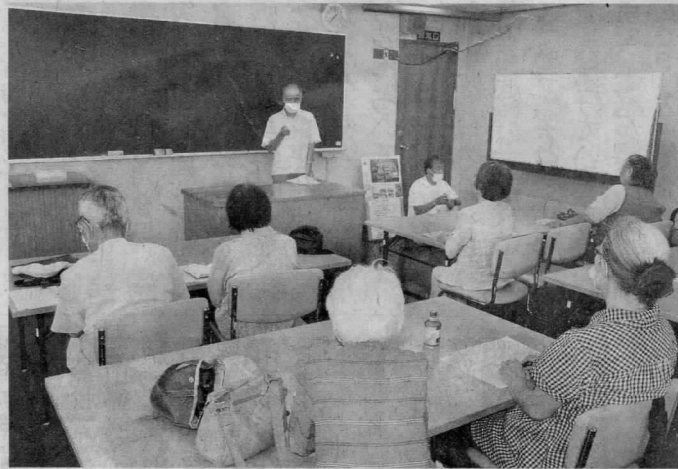
# 核兵器廃絶へ 市民の会発足

## 条約の署名・批准求める

諏訪市内の有志が27日、「核兵器禁止条約の署名・批准を求める諏訪市民の会（仮称）」を発足させた。同日に市民館で開いた会合で、核兵器廃絶を目指して活動することを確認した。今後諏訪市議会に対し、「政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書の提出を求める陳情」を提出する方針。提出に向けた署名活動を行うという。

市民の会世話人の一人、宮坂茂雄・原水爆禁止諏訪市協議会長によると、世界で戦争が絶えない現状を踏まえ、一日も早く日本として核兵器禁止条約の批准が必要と考えたといい、諏訪地域の有志らで

つくるグループ「戦争はいやだ、平和を守ろう会」など賛



同者と連携していく。宮坂さんは「被爆者が生きているうちに条約の署名・批准をしたい」と話した。正式名称は今後詰める。

この日は4歳の時に広島で被爆した今井和子さん―長野市―を招き、当時の話を聞いた。今井さんは、原爆が投下されたとき、「すごい閃光で体が浮き上がるような爆音や暴風が起きた」と説明。自身はふくらはぎにガラスが刺さるけが。祖父は亡くなったという。

何が起きた核兵器廃絶を目指して新たな団体を発足させることを決めた会合

のことも分ならず、大勢の少年少女が死んだと振り返り、「核兵器があるから戦争が起きる。廃絶へかじを切り替えないと修復できなくなる。黙っているわけにはいかない」と強調した。（小尾口有二）

【本報】  
具前讀古昔文脈不尖 元…丸文昌代  
山文文騰の南西品々八  
山土定園も不勤黒一  
一「特文の面効」 「スセーの文騰」